

社説：科学と政治は切り離せない

政治家は、学術の自治、学問の自由の保護の原則に反している。

Nature 誌は向こう数週間もしくは数ヶ月、
現在より政治的ニュース、コメント及び一次調査について公表するでしょう。

Editorials: Science and politics are inseparable

Nature, 586 (8 October 2020): 169-170

Nature 誌は、これまで「科学と政治」に関するニュース、解説及び一次調査の結果について公表してきました。しかし、なぜ科学誌が政治までかかわるのでしょうか？このことはしばしば読者から尋ねられる重要な質問でした。今週、Nature 誌のレポーターは、11月3日の米国大統領選挙でもしバイデン氏が勝ち、トランプ大統領の科学にとって問題ある遺産の時代を終局にすることは、科学にどんなインパクトを与えるだろうかということ概観しています。私たちは世界中から政治に関する情報を集め、その報道を増やし、政治科学及び関連する分野の一次調査を公表することを計画しています。

科学と政治は、常にお互いに依存していました。政治家の決定と行動は研究資金及び研究政策の優先事項に影響します。同時に科学と研究は、環境保全からデータ倫理まで情報を提供し、公共政策の範囲を形成します。政治家の行動は、また高等教育の環境に影響します。学問の自由が支持されていること、そして平等を守り、個々の「違い」を受け入れ、認め合い、生かしていくために、もっと一生懸命働くように機関とコミットすることを、そしてこれまで疎外されてきたコミュニティからの声に、より多くのスペースを与えることを確認できます。しかし、政治家はそれを覆す法律を成立させる権限を有しています。

これまで 100 万人の命を奪った新型コロナウイルス・パンデミックは、これまでになかった公共の場で、そして困難な問題に焦点をあてて、科学と政治の関係を推進してきました。新型コロナに関する研究は感染症としては前例のない速度で実施されています。政治的リーダーが、いかに彼らの決定に科学を使っているのか、それらがいかに誤解、誤用または抑制されているか、世界的に強い関心が寄せられています。政治家と政府が相談し、または雇用している科学者の間の関係が変動することに多くの関心が寄せられています。

脅威にさらされている学術的自治

おそらく、もっとやっかいなことは、政治家の学術の自治又は学問の自由を保護するという原則に反対するシグナルです。以前の文明を含む何世紀にもわたって存在していたこの原理は、近代科学の中心に位置しています。今日、この原理は仕事で公共の資金にアクセスする研究者にとって、彼らの科学の実施、または彼らが到達した最終結論への政治家からの評価を期待することができないかまたは極めて限定されていると見なされています。そして、政治家及び官僚が研究者にアドバイスや情報求めたとしても、彼らもとめる答えを得ることはできないことを理解すべきでしょう。このことは、科学と政治の間の今日的契約の基礎であり、研究、教育、公序及び規制など全体に適用されます。

それは決して完全なシステムではありません。いくつかの研究分野では他より高い自律性が求められます。研究者の自律性とは、決して研究者に自由行動を許すことではありません。研究者は自らの行動に対して説明責任を有しており、品質基準と完全性が支持されていなければなりません。自律性を守ることは研究者が、政策立案者に熱望する長年の基準です。お互いのその語彙を保つためには研究者と

政治家の間のある程度の信頼を必要とします。そして、この信頼が引き潮になると、システムも又脆弱になってしまいます。

「信頼」は、今、世界中でかなりの圧力に曝されています。裂け目は、人為的行為であることを示す反駁できない証拠を無視するか、弱体化させようとする気候変動の分野で、ここ数年明らかになってきました。しかし、信頼の欠如は、効果的政策立案に欠かせない検証可能な知識と研究の他の公的部門でも見ることができます。

昨年、ブラジルのボルソナロ大統領は、彼の任期中にアマゾンの森林破壊が進んだという報告書を提出した国立宇宙空間研究所のトップを更迭しました。同じ年、インドでは 100 名を超す経済学者が、インドのモディ首相に、インドの公式統計、特に経済関連統計への政治的改変に関して、政治的影響力の終焉を促すという前例のない一步を踏み出しました。

つい先週、日本の菅首相は、かつて政府の科学政策に批判的だった 6 名の科学者を日本学術会議の候補者から外しました。日本学術会議は日本の科学者の声を代表する独立組織です。2004 年に首相の「任命」が開始されてから初めての事態です。

パンデミックも又、科学への政治介入の新たな例です。イギリスでは 6 月に、統計規制当局が「可能な最大数のテスト」として示した新型コロナ試験データについて、政府は繰り返しその不正確さを強調していると指摘しました。

公衆衛生及び感染症研究の分野は、パンデミックの影響及びいかにパンデミックを抑制するかについて多くのことを明らかにしてきました。今年、新型コロナウイルスについての研究の多くの部分は、ウイルスの性状と症状の両方の挙動に焦点をあててきました。研究はまた不確実性、ギャップ及び私たちの知識の過ちを明らかにしました。しかし、トランプの悪名高い行動により、混沌となり、攻撃され弱体化されてしまっている科学者からの情報の不足への対応などを許すことはできません。

国家は学術的自立を尊重するだろうという原理は、現代の研究を支える基礎のひとつであり、研究及び政策決定における品質と完全性の基準であり、それを犯すことには重大なリスクが伴います。

なぜ Nature 誌のレポーターが、世界的に政治と研究に生じていることについて監視と報告への努力を倍加するのでしょうか。なぜ私たちの専門家の解説の著者は開発を評価し、批評するのでしょうか、そして何故学術誌は政治科学の一次研究を公表しようとしているのでしょうか

そして、この社説のページで、私たちは政治家に学習及び協調の精神を受け入れるように促し、さまざまな視点を評価すること、そして科学のおよび学術の自治への真摯な対応を尊重することを促していきます。

科学と政治の関係を導いた慣習は脅威のもとにあることを Nature 誌は黙認することができません。

(訳者:飯山賢治)